

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-505293(P2005-505293A)

【公表日】平成17年2月24日(2005.2.24)

【年通号数】公開・登録公報2005-008

【出願番号】特願2003-535704(P2003-535704)

【国際特許分類】

**C 1 2 N 15/09 (2006.01)**

**A 6 1 P 31/04 (2006.01)**

**A 6 1 P 31/12 (2006.01)**

**A 6 1 P 35/00 (2006.01)**

**A 6 1 P 37/00 (2006.01)**

**A 6 1 P 43/00 (2006.01)**

**C 0 7 K 14/52 (2006.01)**

**C 0 7 K 16/24 (2006.01)**

**C 0 7 K 16/46 (2006.01)**

**C 0 7 K 19/00 (2006.01)**

**C 1 2 N 1/15 (2006.01)**

**C 1 2 N 1/19 (2006.01)**

**C 1 2 N 1/21 (2006.01)**

**C 1 2 P 21/02 (2006.01)**

**A 6 1 K 38/00 (2006.01)**

**C 1 2 N 5/10 (2006.01)**

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/00

A 6 1 P 43/00 1 0 5

C 0 7 K 14/52

C 0 7 K 16/24

C 0 7 K 16/46

C 0 7 K 19/00

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 P 21/02 C

A 6 1 K 37/02

C 1 2 N 5/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成17年5月13日(2005.5.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

SEQ ID NO: 4 に対して少なくとも 80% のアミノ酸配列同一性を有し、SEQ ID NO: 4 の 127 - 131 の位置にあるフューリン開裂部位 R R K R K を不活性化するように修飾され、かつ少なくとも 1 つの T S L P 活性を有するポリペプチド、をコードするポリヌクレオチドを含む単離核酸分子。

## 【請求項 2】

SEQ ID NO: 10、12、14、16、17 または 18 に対して少なくとも 80% のアミノ酸配列同一性を有し、かつ不活性化フューリン開裂部位および少なくとも 1 つの T S L P 活性を有するポリペプチドを、ポリヌクレオチドがコードする、請求項 1 に記載の単離核酸分子。

## 【請求項 3】

ポリヌクレオチドが SEQ ID NO: 3 またはその相補体に対して少なくとも 80% の配列同一性を有し、該ポリヌクレオチドが不活性化フューリン開裂部位および少なくとも 1 つの T S L P 活性を有するポリペプチドをコードする、請求項 1 に記載の単離核酸分子。

## 【請求項 4】

さらに、異種タンパク質をコードするヌクレオチド配列を、請求項 1 に記載のポリヌクレオチドと読み枠が一致した状態で含む、請求項 1 に記載の核酸分子。

## 【請求項 5】

異種タンパク質が細胞ターゲティング部分またはペプチドタグである、請求項 4 に記載の核酸分子。

## 【請求項 6】

細胞ターゲティング部分が、細胞表面抗原を結合する抗体または細胞表面受容体に結合するリガンドである、請求項 5 に記載の核酸分子。

## 【請求項 7】

異種タンパク質が Fc ポリペプチドである、請求項 4 に記載の核酸分子。

## 【請求項 8】

機能可能な状態で転写または翻訳調節配列に結合した、請求項 1 に記載の核酸分子。

## 【請求項 9】

転写または翻訳調節配列が転写プロモーターまたはエンハンサーを含む、請求項 8 に記載の核酸分子。

## 【請求項 10】

SEQ ID NO: 4 に対して少なくとも 80% のアミノ酸配列同一性を有し、SEQ ID NO: 4 の 127 - 131 の位置にあるフューリン開裂部位 R R K R K を不活性化するように修飾され、かつ少なくとも 1 つの T S L P 活性を有する、修飾したヒト胸腺ストローマ細胞リンホポエチン ( T S L P ) ポリペプチドを含むタンパク質。

## 【請求項 11】

ポリペプチドが SEQ ID NO: 10、12、14、16、17 および 18 に対して少なくとも 80% のアミノ酸配列同一性を有し、ポリペプチドが不活性化フューリン開裂部位および少なくとも 1 つの T S L P 活性を有する、請求項 10 に記載のタンパク質。

## 【請求項 12】

ポリペプチドが異種タンパク質に融合している、請求項 10 に記載のタンパク質。

## 【請求項 13】

異種タンパク質がペプチドタグまたは細胞ターゲティング部分である、請求項 12 に記載のタンパク質。

## 【請求項 14】

異種タンパク質が Fc ポリペプチドである、請求項 12 に記載のタンパク質。

## 【請求項 15】

請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載の核酸を含むベクター。

## 【請求項 16】

請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載の核酸分子を発現するように遺伝子工学的に処理された宿主細胞。

## 【請求項 17】

請求項 10 に記載のポリペプチドおよび医薬的に許容できるキャリアーを含む組成物。

## 【請求項 18】

請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載の核酸分子を発現するように遺伝子工学的に処理された宿主細胞をインキュベートし、そして、少なくとも 1 つの機能性ヒト T S L P 活性を有するフェリニ抵抗性ポリペプチドを産生させる方法。

## 【請求項 19】

リンパ球増殖を刺激する、又はリンパ球形成を促進するための医薬組成物であって、有効量の請求項 10 に記載のタンパク質または請求項 12 に記載のタンパク質を含む、前記医薬組成物。

## 【請求項 20】

S T A T 5 のリン酸化を誘発する方法であって、S T A T 5 を含有する試料を請求項 10 に記載のタンパク質または請求項 12 に記載のタンパク質と接触させることを含む方法。

## 【請求項 21】

請求項 10 に記載のタンパク質およびキャリアーを含むワクチンアジュバント。

## 【請求項 22】

リンパ球増殖を刺激するための、リンパ球形成を促進するための、あるいは S T A T 5 のリン酸化を誘発するための医薬の製造における、請求項 1 に記載の核酸分子または請求項 10 に記載のタンパク質の使用。

## 【請求項 23】

請求項 10 に記載のタンパク質に対する抗体。